



## 命を守る防災ベッド 設置補助の利用を

公明党横浜市会ニュース  
横浜市議員(港南区)

安西 ひでとし

### 2012年度から 補助対象者が拡大

震災時、建物が倒壊しても命だけは守ろうと、横浜市は「防災ベッド」と「耐震シェルター」の設置費用を補助しています。この制度が公明党横浜市会議員団の行動により、2012年度から補助対象者が拡大し、利用しやすくなりました。防災ベッドは上部を頑丈なフレームで囲っているもので、耐震シェルターは部屋の中に設置する丈夫な箱のようなものですが、両方とも建物が倒壊しても生存スペースを確保し、圧死を防ぐ効果が期待されています。



市は1981年5月以前に建てられた2階建以下の木造住宅に居住している人を対象に、防災ベッドまたは耐震シェルターの購入費用として10万円を限度に補助して

います。昨年度まで年齢制限等がありました。昨年度から条件が緩和され、対象住宅にお住まいなら誰でも制度を使えるようになりました。

市は木造住宅の耐震改修工事についても助成していますが、自己負担も高額です。防災ベッドならば運搬や設置なども含めて費用は30万円ほどから選べ、10万円の補助があれば20万円を導入することができます。

阪神・淡路大震災で亡くなった人の8割が建物倒壊による圧死でした。自分や家族の命を守るために、この補助制度をご検討ください。

詳細は市建築局まで。

【電話】045・671・2930



### あかちゃん 命を守る

生まれた赤ちゃん1万人に1人の割合で発症し、命に関わる「胆道閉鎖症」。この病気は便の色が異常で気付くことができ、また、早期に手術することによって生存率を高めることができるため、公明党の市・県・国の議員が連携し、便色の簡易チェックができるカードを母子手帳にとじ込むことを国に要望してきました。その結果、この5月から横浜市も含む全国一律でとじ込みを実現しました。

**うちの色に注意!**  
カラーカードでチェックしましょう。

どうしてうちのカラーカードが必要なの?

出生後1万人に1人の赤ちゃんがかかる病気に、胆道閉鎖症という病気があります。うちの色がぐすい(黄色や明るいオレンジ色)、ういす(赤や白っぽい)色になることが1つの特徴で、生まれてから2ヶ月ごろまでの早期発見と早期手術で、よい結果が期待されています。

胆道閉鎖症ってどんな病気?

胆管がつまって、胆汁を出すことができなくなる病気です。早期に発見し手術を受けないと必ず亡くなります。肝臓の障害により、この子の命を脅かします。

生まれて1ヶ月までのうちの色

月	日

1ヶ月過ぎた後のうちの色

月	日

胆道閉鎖症は、うちの色を確認しましょう。厚生労働省が作成した簡易検査キット(母子手帳)に、この簡易検査キットが添付されています。また、この簡易検査キットは、無料で配布されています。

